

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議への評価報告
I. 理念・安心と安全に基づく運営					
1	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<p>○新型コロナ以降、少しずつではあるが、馥郁への出入りも増え、地域にも出るようになったが、交流まではできていない。</p> <p>○地域と利用者との交流はできなかったが、地域貢献という形で、物販の協力をしたりしていた。</p> <p>○地域の大学や研修機関からの実習生を受け入れたりすることで、広義での繋がりにはなっている。</p> <p>○運営推進会議での情報交換は出来ているが、地域行事等の参加は感染症対策からも出来ていない。</p> <p>○地域交流はまだまだ感染対策上難しい現状にあった。</p> <p>○SNSの発信を行うことで、認知症への理解や馥郁での取組みの情報発信は出来ていると思う。</p>	<p>新型コロナの影響により、地域住民との直接的な交流や行事参加は十分に再開できていませんが、来所者の増加や外出機会の確保など、少しずつ地域とのつながりを取り戻しつつあります。</p> <p>一方で、物販協力や大学・研修機関からの実習生受け入れなど、広い意味での地域との関わりは継続できています。また、運営推進会議では情報交換を行い、地域と事業所との連携について共通理解を深めています。</p> <p>さらにSNSで認知症理解や日々の取組みを発信することで、間接的な交流は確保できていると考えています。今後は感染状況の推移を見ながら、地域行事への段階的な参加や、小規模な交流の機会づくりなど、利用者が地域の一員として暮らし続けていくための取組みをさらに進めてまいります。</p>
2	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<p>○対面開催が出来るようになって、取組みの状況等についての報告は2ヶ月に1回できている。</p> <p>○運営推進会議の目的や意義は浸透しており、率直な意見を頂き、参考にしてミーティング等で検討している。</p> <p>○運営推進会議へ職員の参加が始まったことで、会議の内容の共有やサービス向上につなげることができるようになっている。</p>	<p>対面での開催が再開され、現在は2か月に1回、取組み状況や利用者様の様子について報告を行っています。運営推進会議の目的や意義は委員の皆様にも十分浸透しており、毎回率直なご意見をいただき、それらを職員ミーティング等で共有し、サービス向上に反映する取り組みが進んでいます。</p> <p>また、職員も会議に参加するようになったことで、会議内容の理解が深まり、現場レベルで改善につなげやすくなりました。今後も、会議での意見を積極的に取り入れ、より良いケアの提供に活かしてまいります。</p>
3	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<p>○市町村担当者との連絡は、施設長が直接されており、重要な内容は回覧やグループLINEで情報を共有する機会ができている。</p> <p>○運営推進会議録を市町村へ提出することでの報告はできている。</p> <p>○令和7年度は、グループホーム協議会での研修会を市町村担当者との意見交換の場として計画するなど、実情や取り組みについての課題などの共有や協力ができるようになっている。</p> <p>○感染対策についての協定（協議会と川内市医師会立市民病院）についても市町村の理解と連携が図れるようになっている。</p>	<p>市町村担当者とは、日頃から施設長が直接連絡を取り、必要な情報を共有し合える関係づくりを進めています。事業所内では、得られた情報を回覧やグループLINEで速やかに共有できる体制を整え、職員全体で同じ認識を持てるよう努めています。また、運営推進会議の議事録提出を通して、事業所の取り組みや現状を市町村へ定期的に報告し、透明性のある連携を図っています。さらに、令和7年度には、グループホーム協議会として市町村担当者との意見交換を目的とした研修会も計画しており、地域課題やサービス向上に向けた協力体制が一層進む見込みです。</p>

4	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>○情報収集を通して、場所や人との思い出など、途切れることがないように努めている。</p> <p>○利用者様が、自宅の事や家族の事を気にされたり、心配された時は少しでも不安を解消するためにご家族と連絡を取り合い、話をしたり、外出の機会を計画するなど取り組んでいる。</p> <p>○面会が主な交流できる機会であるが、ご家族が遠方におられたり忙しかったりする等で、思うような交流が出来ない方もいるので個別に外出の機会や気分転換の場の提供に取り組んでいる。</p> <p>○家族がいつでも気軽に面会できるように情報の発信に努めている。</p>	<p>利用者様がこれまで大切にしてきた人や場所とのつながりを継続できるよう、日々の情報収集を通じて、その方の思い出や背景を把握し、支援に反映するよう努めています。</p> <p>ご家族や自宅のことを気にされ、不安を抱かれる場合には、必要に応じてご家族へ連絡を取り、状況共有や安心につながる関わりを行っています。また、可能な範囲で外出の機会を設けるなど、利用者様の思いに寄り添った支援を心がけています。面会は大変な交流の機会ですが、ご家族が遠方に住まれているなど、多忙で頻繁な来訪が難しいケースもあります。そのため、個々の状況に応じて外出支援や気分転換の機会を設けるなど、別の形で“つながりを感じられる時間”をつくる工夫を行っています。</p> <p>また、ご家族が気軽に訪問できるよう、面会方法や日々の取り組みについて情報発信も継続しており、関係が途切れないための環境整備にも取り組んでいます。</p>
---	------------------	---	---	---	---

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

5	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>○利用者様の状態については、変化や気付きがあった場合は、その都度、意見を出し合い、改善できるようにスタッフ間で話し合いを行っている。</p> <p>○各ユニットで話し合いを行い、全員での情報共有が出来ている。</p> <p>○月1回のユニット毎のカンファレンスを通して、利用者の課題の解決、発見について共有をおこなっている。</p> <p>○情報共有ノートを活用が浸透している。</p> <p>○ご家族の面会時には、ご家族からの取組みについての評価と要望についても意見を伺うように取り組んでくる。</p>	<p>利用者様のより良い暮らしを実現するため、日々の気付きや状態の変化はその都度職員間で共有し、支援方法の改善につなげています。ユニットごとの協議や月1回のカンファレンスを通じて課題を整理し、必要な支援を検討する体制も整っています。</p> <p>また、情報共有ノートの活用により、日常的な連携がスムーズに行われています。面会時にはご家族の意見や要望を丁寧に伺い、介護計画に反映することで、本人・家族・関係者の意向を踏まえた実効性のある支援に取り組んでいます。</p>
6	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>○できるだけ、一人ひとりに合わせた対応を実践しているため、個別性のある支援はできているが、感染対策上、それが十分に出来ているかとなると制限があり、内容によって取り組みに差がある。</p> <p>○どうしても施設内での取り組みに限定されがちとなっている。</p> <p>○気づきに対しての早期の話し合いの場、共有の機会はできている。</p>	<p>利用者様やご家族の状況に応じて、できる限り個別性を重視した柔軟な支援に取り組んでいます。感染対策の制約により対応に限界が生じる場合もありますが、その都度工夫しながら支援方法の改善に努めています。</p> <p>日々の気付きや変化は早期に職員間で共有し、必要な支援を検討できる体制が整っています。今後も、感染状況を踏まえつつ外部資源の活用を含めた多機能的な支援の実現に向けて取り組んでまいります。</p>
7	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>○地域の公園やイベントなどの情報収集を行うことで、施設に閉じこもることを減らした活動を定期的に取り組んでいる。</p> <p>○利用者一人ひとりが以前から利用していた、または利用したい地域資源をアセスメントで把握するようにしている。</p>	<p>利用者様がこれまで大切にしてきた地域とのつながりを尊重し、地域の公園やイベントなどの情報を収集しながら、外出活動や季節行事を取り入れています。アセスメントでは、利用者様が親しんできた場所や希望される地域資源を把握し、日々の</p>

		らしを楽しむことができるよう支援している		<p>○SNS や広報紙等から施設周辺の地域資源マップや一覧の情報収集を行っている。</p> <p>○外出活動や季節行事など、地域に存在するものの情報を集めながら、豊かな暮らしを目指すため取り組むことができている。</p> <p>○残存機能を活かした取り組みを心がけている。</p>	<p>支援に反映できるよう努めています。</p> <p>また、地域資源の情報は SNS や広報紙等を活用して整理し、利用者様が残存機能を発揮しながら豊かに暮らせるよう支援体制を整えています。今後も地域資源を積極的に活かし、よりその人らしい生活につながる支援を進めてまいります。</p>
8	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>○訓練を通して、職員はいざという時の対応を身につけてきていると思います。公共施設の情報収集も含め、安全のもとでの利用者様の生活維持に努めている。</p> <p>○防災マニュアルの確認や訓練が定期的に行われている。</p> <p>○火災、水害等の訓練を通して、常に命を守る責任を感じる機会となっている。</p> <p>○訓練に参加できなかった職員も、同じように訓練する機会を計画したことで、職員全体の防災意識が高まっている。</p>	<p>火災・地震・水害などの災害発生時に適切な避難誘導が行えるよう、定期的な防災訓練とマニュアルの確認を継続しています。訓練では、状況判断や避難誘導の手順を繰り返し実践し、昼夜を問わず対応できる力の向上を図っています。</p> <p>また、訓練に参加できなかった職員にも個別の実施機会を設けることで、全職員が同じ水準で避難支援を行えるよう配慮しています。これにより、職員全体の防災意識が高まり、「利用者様の命を守る」という責任を共有する体制が強化されています。</p> <p>地域の避難場所や公共施設の情報収集も行い、安全に配慮した避難経路や受け入れ先の確認を進めており、地域との協力体制づくりにも努めています。</p>

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

9	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>○年行事や祝事、時間が取れる時は散歩や趣味活動など、できる事を当たり前の日常として心がけるようにしている。</p> <p>○個々の役割や習慣、得意なことや好きなことを知り、日常の場面で取り入れている。家事活動以外にも近隣の散歩や、歌の時間等気分転換も図れるよう取り組んでいる。</p> <p>○利用者様が楽しめるよう興味のある事や好きな事のアセスメントを日常の場面で心がけている。</p> <p>○一人一人の役割を分担し、残存機能を活かした支援を心がけている。</p> <p>○レクリエーションは一人一人の個性を大切にしながら取り組んでいる。</p>	<p>利用者様が張り合いや喜びを持って日々を過ごせるよう、生活歴や嗜好、得意なことをアセスメントで把握し、日常の支援に反映しています。季節の行事や祝い事、家事活動の参加、近隣への散歩、趣味活動や歌の時間など、その方が楽しみや達成感を得られる機会を日常の中に取り入れるよう努めています。</p> <p>また、一人ひとりの残存機能に応じて役割を持っていただくことで、生活の中での意欲や参加が引き出せるよう支援しています。レクリエーションについても個性性を重視し、無理なく参加できる形を工夫しながら、気分転換や充実した時間につながる取り組みを継続しています。</p>
10	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p>○希望があれば、皆で協力して対応することができている。</p> <p>○職員配置や時間帯によっては、十分な対応ができないこともある。</p> <p>○外出の機会は、年々増やすことができたが、感染対策上、行き先や内容は限定されるものもある。</p> <p>○家族からの希望があれば外出については、内容を精査した上で極力許可するようにしているが、制限も多い。</p> <p>○地域協力はこれからの課題だと感じている。</p>	<p>利用者様のその日の希望にできる限り沿えるよう、外出の支援を柔軟に行っています。外出の機会は年々増えており、季節の散策や買い物など、日常の延長で楽しめる活動を中心に実施しています。</p> <p>一方、感染対策や職員配置の状況により、行き先や時間帯が制限されることもあります。ご家族から希望がある場合には、内容を十分に確認した上で可能な範囲で実施しています。また、普段は行きにくい場所についても、家族と連携しながら実現できるよう調整を行っています。</p>

					地域との協力体制については、今後さらに広げていくべき課題として認識しており、より多様な外出が実現できるよう検討を進めてまいります。
11	生活の継続性	本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○その日の朝に申し出があった場合でも、スタッフ間で協力して外出することもできている。 ○ご本人の意向は十分に受け入れ、当日が難しくても後日、計画するなどの取組みは出来ている。 ○ご本人からの意向、希望の訴えが難しい方々への対応が今後の課題である。	利用者様の意向やその日の気分を尊重し、可能な範囲で外出や行事への参加ができるよう支援しています。急な申し出であっても、職員間で調整を行い、対応できる体制づくりに努めています。また、当日の実施が難しい場合には、後日に計画を立てるなど、本人の希望が実現できるよう柔軟に対処しています。 一方で、ご本人の意思表示が難しい場合には、表情やしぐさ、普段との小さな変化から気持ちを読み取り、職員同士で丁寧に共有しながら支援につなげていく必要があると感じています。今後も、その方らしい意向をできるだけ反映できるよう工夫を続けてまいります。
12	本人が持つ力の活用	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○入所前から繋がりがあった、美容院や整骨院など施設入所に伴いすべての繋がりが切れてしまわないように感染対策を講じながらご本人の繋がりを大切にしている。 ○散歩の機会の提供から、近隣の方々へ挨拶したり、近隣の園児と触れ合うなど交流する場は大切にしている。 ○全員がすべて出来ている訳ではないので、一人ひとりのペースや活動能力を考慮した検討が必要である。	利用者様が地域とのつながりを保てるよう、入所前から関わりのあった美容院・整骨院などの利用を継続できるよう支援しています。また、散歩の際には近隣住民や園児との自然な交流が生まれるよう環境を整え、地域との関わりを大切にしています。 一方で、交流の程度には個々の体力や意欲によって差があるため、それぞれに合った無理のない関わり方を検討し、支援の充実を図ってまいります。
13		本人は、このGHにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	○できるだけ、ご本人との日常の会話を通して、不安がないか？困っていないか？など表情もあわせて確認することを心がけている。 ○本人の笑顔、それをご覧になられた家族の喜びの言葉から満足されていると実感されていると受け止めている。	日常の会話や表情の変化を丁寧に確認しながら、利用者様が不安を抱えず安心して過ごせるよう支援しています。職員との関わりの中で笑顔が見られる場面も多く、ご家族からも安心や喜びの声をいただいております。利用者様が穏やかに暮らしていることを実感しています。 地域の方々との挨拶や触れ合いも自然な形で行われており、利用者様がこのグループホームで親しみを持って過ごせる環境づくりが進んでいます。今後も、ご本人の気持ちを尊重しながら、安心して過ごせる日々を継続して提供してまいります。

グループホーム 馥郁 (R7.11.25 開催)

令和7年度 自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール (20項目評価)

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	外部評価	運営推進会議のコメント
I.理念・安心と安全に基づく運営						
1	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている	<p>◎身体拘束委員会を中心に、外部研修の受講および内部研修を計画的に実施し、職員全員が「身体拘束を行わないケア」への理解を深められるよう継続して取り組んでいる。日々のケアにおいても、必要に応じて職員間で振り返りを行い、身体拘束に頼らない支援方法の検討を行っている。</p> <p>◎人感センサーを活用した見守り体制を整備し、鳴動時には速やかに対応できるよう努めている。一方で、時間帯によっては職員配置の関係から対応に不安が生じる場面もあり、今後は体制面や運用方法について引き続き検討が必要であると考えられる。</p> <p>◎玄関の施錠については夜間帯に限定して実施しており、施錠の有無については夜勤者が確実に確認する体制としている。安全確保と利用者の尊厳とのバランスに配慮しながら、運用を行っている。</p>	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<p><運営推進会議></p> <p>身体拘束を行わないケアに向けた研修や委員会活動が継続されており、職員の意識向上につながっている点は評価できる。見守り機器の活用や夜間の施錠管理についても一定の配慮がなされているが、時間帯による対応体制については今後も検討を重ね、より安心できる支援体制の構築を期待します。</p>
2	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている	<p>◎高齢者虐待防止に関する外部研修にも参加し、研修資料や伝達研修を通じて、職員一人ひとりが制度や対応方法を正しく理解できるよう努めている。</p> <p>◎年2回、虐待防止に関する定期的な勉強会を開催し、職員の知識および支援の質の向上に取り組んでいる。</p> <p>◎不適切なケアの防止に向けて、ユニットカンファレンスにおいて定期的にケアの振り返りを行い、日々の支援内容を見直す機会を設けている。</p> <p>◎職員同士で意見を出し合いながらケアの改善を図るとともに、利用者への言葉かけについても相互に意識し、より適切な関わりができるよう取り組んでいる。</p>	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<p><運営推進会議></p> <p>虐待防止に向けた研修や勉強会が定期的実施され、職員の意識向上につながっている点は評価できる。日常的なケアの振り返りや言葉かけへの配慮も行われており、今後も継続的な取り組みにより、安心できる支援体制の充実を期待します。</p>
3	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B. ほぼできている	<p>◎面会時には、家族に対して気づいた点や要望がないかをその都度確認し、意見を伺う機会を設けている。</p> <p>◎面会が難しい家族に対しても、電話や文書による報告を行うほか、月次報告やSNS (Instagram) を活用し、日々の様子やサービス内容が伝わるよう工夫している。</p>	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<p><運営推進会議></p> <p>家族からの意見や要望を面会時に確認し、面会が難しい場合も電話や文書、SNS等を活用して情報共有が行われている点は評価できる。今後も家族との連携を大切にしながら、安心してサービスを利用できる体制づくりを期待します。</p>

				◎家族から寄せられた要望や意見については、各ユニットのリーダーが取りまとめ、責任者および職員へ共有する体制を整え、ケアや運営に反映できるよう努めている。		
4	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている	◎年2回の個人面談を実施し、職員一人ひとりの目標や課題について代表者と共有する機会を設けている。面談を通じて、職員の意向を把握し、今後の育成や業務への反映に努めている。 ◎定期的な事業所内勉強会の開催や外部研修への参加を積極的に行い、職員の知識や技術の向上を図ることで、支援の質の向上につなげている。 ◎処遇改善の見直しや働きやすい職場環境づくりについても継続的に検討・改善が行われており、職員が安心して働き続けられる環境整備に努めている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 個人面談や研修の機会が確保され、職員の育成と資質向上に継続的に取り組まれている点は評価できる。今後も働きやすい環境づくりを進めながら、安定したサービス提供の継続を期待します。
5	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている	◎事業所内研修については、各委員会が主体的に研修内容を計画・実施しており、職員一人ひとりが学ぶ姿勢を持って取り組める体制が整えられている。 ◎グループホーム協議会が実施する研修（オンライン研修を含む）についても、代表者が定期的に情報発信を行い、職員が参加しやすい環境づくりが図られている。 ◎研修等を通じて、資格取得の重要性について理解を深める機会が設けられており、職員のキャリア形成への意識向上につながっている。 ◎認知症ケアに関する研修については、段階を踏んだ学びの機会があることを職員が理解し、それぞれの経験や役割に応じた学習に取り組める環境が整えられている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 各委員会が主体となった研修体制や外部研修の情報共有が行われており、職員の学びを支える環境が整っている点は評価できる。今後も段階的な研修を継続し、専門性の向上につながる取り組みを期待します。
6	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B. ほぼできている	◎日々の気づきや家族との面会時に得られた情報については、共有ツールを活用して職員間で共有し、必要に応じてケア計画の作成や見直しに活かしている。 ◎面会制限の緩和により家族と会える機会が増えたことで、利用者の生活状況や意向に関する情報を把握する場が広がっている。 ◎専門職（理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士）との意見交換の機会を設け、ケア計画の見直しやケアの評価に役立つ体制が整えられている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 家族や専門職から得た情報を職員間で共有し、ケア計画に活かす体制が整えられている点は評価できる。今後も多職種・家族との連携を深め、個別性の高い支援の充実を期待します。

7	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている	<p>◎ケース記録や共有ノートを活用し、利用者に関する情報を職員間で共有することで、日々のケアに役立てている。</p> <p>◎定時の申し送りやユニットカンファレンスを通じて、職員間での情報共有やケア内容の振り返りを行い、支援の見直しにつなげる機会として活用している。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>記録や申し送りを通じた情報共有の体制が整えられており、ケアの見直しに活かされている点は評価できる。今後も職員間の連携を大切に、支援の質の向上につながる取り組みを期待します。</p>
8	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている	<p>◎入院が必要となった際には、情報提供書を作成し、受入先の医療機関へ適切に情報提供を行っている。</p> <p>◎入院時には、家族が安心して療養を見守れるよう、状況や今後の流れについて十分な説明を行い、必要な協力を積極的に行っている。</p> <p>◎訪問看護との日頃からの連携を通じて、医療機関関係者との関係づくりに努めている。</p> <p>◎直接医療機関とのやり取りを行わない場合であっても、平時から利用者の状態を丁寧に把握し、異常時には速やかに関係機関へ報告できるよう心がけている。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>入院時の情報提供や家族への説明が適切に行われており、医療機関や訪問看護との連携も図られている点は評価できる。今後も平時からの観察と連携を大切に、安心して医療につなげられる体制の継続を期待します。</p>
9	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	A. 十分にできている	<p>◎重度化指針については、入所前に本人および家族と共有しているが、利用者の状態変化や意向の変化に応じて、定期的な確認や見直しを行っていく必要がある。</p> <p>◎高齢化が進む中で、心身の変化に対する日々の気づきを大切に、重度化した場合にも状況に応じた適切な介護が提供できるよう、本人および家族の意向について、定期的な話し合いや日常的な会話を通じて丁寧に把握していくことが求められる。</p> <p>◎地域の関係者を社会資源の一つとして捉え、必要時に選択肢として活用できるよう、地域資源に関する情報収集や職員間での共有を進めていく必要がある。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>重度化指針の共有が行われている点は評価できるが、状態変化に応じた定期的な確認と本人・家族との継続的な話し合いが重要である。今後は地域資源の情報共有を進め、重度化した場合にも柔軟に対応できる体制づくりを期待します。</p>
10	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている	<p>◎火災訓練を年2回、水害訓練を年1回実施しており、災害発生時を想定した対応力の向上に取り組んでいる。</p> <p>◎当日の訓練に参加できなかった職員についても、後日、図上訓練を実施することで、全職員が災害対応について学ぶ機会を確保している。</p> <p>◎地域の実情から、現時点では地域住民等への協力要請は難しい状況にあるが、今後は地域の状況や事業所として可能な取り組みを検討し、連携のあり方について模索していきたいと考えている。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>防災訓練が計画的に実施され、全職員が災害対応を学べる体制が整っている点は評価できる。今後は地域の実情を踏まえつつ、事業所として可能な防災体制の充実を期待します。</p>

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
11	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている	<p>◎接遇委員会が中心となり、定期的に評価表を用いた自己振り返りアンケートを実施しており、職員一人ひとりの接遇に対する意識づけにつながっている。</p> <p>◎日頃の支援においては、傾聴・受容・共感を大切にした関わりを意識し、利用者や家族に寄り添った対応に努めている。</p> <p>◎事業所内研修会において、年2回の接遇に関する研修が計画的に実施されており、職員の自己研鑽および接遇力の向上につながる機会となっている。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>接遇に関する自己振り返りや研修の機会が確保され、職員の意識向上につながっている点は評価できる。今後も利用者や家族に寄り添った対応の継続を期待します。</p>
12	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている	<p>◎病院の管理栄養士と連携を図りながら、食事形態や内容についての情報共有を行うとともに、管理栄養士を招いて直接指導を受ける機会を設けるなど、食事について検討する取り組みが進められている。</p> <p>◎利用者一人ひとりの嗜好やアレルギー等に配慮した食事提供に努めており、状態や意向の変化に応じて、適宜見直しを行っていくことが重要であると認識している。</p> <p>◎今年度は家族と一緒に楽しめる食事会の開催には至らなかったが、今後は実施に向けた検討を進め、来年度以降の開催を目指していきたいと考えている。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>管理栄養士との連携により、食事の質向上に向けた取り組みが進められている点は評価できる。今後は家族も含めた食事の機会を検討し、生活の質の向上につながる取り組みを期待します。</p>
13	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている	<p>◎義歯のある利用者については義歯洗浄を行い、自歯のある利用者については仕上げ磨きを実施するなど、日常的に口腔ケアに取り組んでいる。</p> <p>◎口腔ケアにあたっては、可能な限り利用者の自立性を尊重し、義歯使用者には専用のブラシを用いるなど個々の状態に応じた対応を行っている。また、自立して実施される利用者についても、磨き残しがないか確認を行い、必要に応じて支援を行っている。</p> <p>◎口腔状態の維持・改善を目的として、必要な利用者については歯科医による往診を依頼するなど、医療機関と連携した対応に努めている。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>口腔ケアが日常的に実施され、自立性を尊重した支援と医療連携が図られている点は評価できる。今後も継続した取り組みにより、健康維持につながる支援を期待します。</p>
14	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立におけた支援、便秘の予防等、個々に	A. 十分にできている	<p>◎主治医と相談しながら、内服調整や排泄状況の傾向把握を行い、個々の状態に応じた対応ができるよう取り組んでいる。</p> <p>◎排泄記録については職員間で常に共有し、利用者の状態変化に応じた適切な対応につなげられるよう努めている。</p>	<p>A. 十分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>排泄記録の共有と医療連携により、状態に応じた適切な排泄ケアが行われている点は評価できる。今後も尊厳に配慮した支援の継続を期待します。</p>

		応じた予防に取り組んでいる		◎利用者一人ひとりの状態に合わせて、定時の声かけや汚染時の交換を行うなど、清潔保持に配慮した支援を行っている。		
15	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている	◎情報共有ノート等を活用し、服薬内容について職員間で理解を深められるよう努めている。 ◎薬剤に変更があった場合には、利用者の状態に変化がないか注意深く観察し、必要に応じて関係機関へ報告する体制をとっている。 ◎一方で、薬剤の副作用については十分に把握しきれていない部分もあり、今後の課題として認識している。 ◎後発医薬品等については、処方内容が同一であっても名称が異なる場合があることを踏まえ、薬剤名や内容を確認するよう心がけている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 服薬内容の共有や薬剤変更時の観察が行われており、服薬管理への意識が高い点は評価できる。今後は副作用への理解を深め、安全な服薬管理体制の充実を期待します。
16	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている	◎完全個室であることから、利用者一人ひとりのプライバシーが確保されている。また、食堂についても明るく清潔な環境を保つよう心がけ、飾り付け等を工夫することで、安心して過ごせる空間づくりに努めている。 ◎見守りが必要な利用者に対しては、人感センサー等を設置し、安全面に配慮した環境整備に取り組んでいる。 ◎席の配置を工夫したり、四季に合わせた壁飾りを取り入れるなど、利用者同士が良好な関係のもと、居心地よく過ごせるよう配慮している。 ◎季節に応じた飾り付けを行うことで、日常生活の中で季節感を感じられる環境づくりに取り組んでいる。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> プライバシーと安全に配慮した生活環境が整えられており、季節感を大切にされた空間づくりも行われている点は評価できる。今後も居心地の良い環境づくりの継続を期待します。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）						
17	本人主体の暮らし	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている	◎毎日の健康チェックを行い、利用者の状態に変化がみられた際には、主治医へ相談し、適切な指示を仰ぐ体制を整えている。 ◎感染対策向上加算のもと、市民病院の感染管理認定看護師から、感染管理や利用者の安全を守るための行動について指導を受け、日常のケアや対応に活かしている。 ◎週1回の訪問看護との連携を図りながら、利用者の健康状態を継続的に確認し、健康管理を最優先に考えた支援に取り組んでいる。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	<運営推進会議> 医療機関や訪問看護と連携し、日常的な健康管理と感染対策に取り組んでいる点は評価できる。今後も専門職との連携を継続し、利用者の安全と健康を守る体制の充実を期待します。

18	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	A. 充分にできている	<p>◎入所時から、自宅で使用していた物品の持ち込みを可能としており、馴染みのある物を身近に置くことで、安心して生活できる環境づくりに努めている。</p> <p>◎居室には家族の写真や慣れ親しんだ物を飾るなど、利用者一人ひとりの生活歴や価値観を尊重し、その人らしさを大切にした支援に取り組んでいる。</p>	<p>A. 充分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>馴染みのある物を取り入れ、その人らしさを尊重した生活環境づくりが行われている点は評価できる。今後も安心して過ごせる環境づくりの継続を期待します。</p>
19	本人の持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 充分にできている	<p>◎今年度は外出の機会を積極的に取り入れるとともに、利用者一人ひとりのニーズに応じた外出支援を実践している。</p> <p>◎気の合う利用者同士で会話を楽しんだり、レクリエーション活動を行うことで、いきいきとした日常生活が送れるよう支援に取り組んでいる。</p> <p>◎日常生活の中で、できるだけ会話の機会を多く持てるよう心がけ、利用者同士や職員との関わりを大切にしている。</p>	<p>A. 充分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>個別のニーズに応じた外出支援や交流の機会が確保されており、生活の質向上につながっている点は評価できる。今後もその人らしい暮らしを支える取り組みの継続を期待します。</p>
20	総合	本人は、このGHにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 充分にできている	<p>◎日々の様子を写真等で記録する中で、利用者の表情からは穏やかで安心した様子が多く見られており、日常生活を前向きに過ごされている様子がうかがえる。</p> <p>◎家族からの面会時やお便りを通じて、グループホームでの生活に対する不安はなく、安心して生活されている姿を見ることができて嬉しいとの声が寄せられており、事業所としても感謝している。</p> <p>◎日々の生活を楽しむ支援に加え、今後の終末期を見据え、その人らしい人生であったと振り返ることができるよう、引き続き利用者の思いや声を大切に、サービスや支援に反映していく必要があると考えている。</p> <p>◎地域交流については、今年度は十分に実施できなかったが、来年度に向けて取り入れていくことを検討していきたい。</p>	<p>A. 充分にできている</p> <p>B. ほぼできている</p> <p>C. あまりできていない</p> <p>D. ほとんどできていない</p>	<p><運営推進会議></p> <p>利用者が安心して穏やかに生活されている様子がうかがえ、家族からの評価も良好である点は評価できる。今後は終末期を見据えた支援や地域交流の取り組みを通じて、よりその人らしい生活の実現を期待します。</p>

グループホーム馥郁 (R7.1.27 開催)

(参考様式4)

事業所名 グループホーム馥郁

目標達成計画

作成日 令和 8 年 2 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者や家族等からの意見や要望については、日常的な会話や面談等の中で把握しており、必要に応じて対応してきた。一方で、意見を意図的に聞き取る機会や、内容を記録し職員間で共有・検討する仕組みが十分に整理されておらず、運営への反映が個別対応にとどまっている部分がある。	利用者や家族等が安心して意見や要望を表すことができる機会を設け、出された意見を職員間で共有し、事業所運営に反映できる仕組みづくりを進める。	①家族面談や来所時等を活用し、利用者・家族の意見や要望を聞き取る機会を設ける ②聞き取った意見や要望については記録に残し、職員間で共有する ③すぐに対応が難しい内容についても、検討した経過や結果を整理し、今後の運営の参考とする	12 ヶ月
2		介護計画の作成・見直しにあたっては、本人の日常の様子や家族の意向を踏まえた支援を行っている。しかし、本人・家族・関係者と改めて話し合う機会が十分に確保できていない場合もあり、それぞれの思いやアイデアを計画に反映する過程が分かりにくくなっている。	本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について、本人・家族・必要な関係者と話し合いを行い、それぞれの意見や思いを反映した、現状に即した介護計画の作成に取り組む。	①介護計画の作成や見直しの際には、本人の生活の様子や思い、家族の意向を確認する ②本人の意思確認が難しい場合には、日々の関わりや表情、これまでの暮らし方を通して思いをくみ取る ③職員間でケアの振り返りを行い、現状に合った支援内容となるよう計画を見直す ④家族や関係者へ計画内容を説明し、意見を踏まえながら支援に活かす	12 ヶ月
3		重度化や終末期に関する支援については、状態変化が生じた際に本人・家族と話し合いを行い、必要な対応を検討してきた。一方で、元気な段階から将来を見据えた話し合いを行う機会が十分とは言えず、事業所としての方針や対応可能な範囲について、早期から共有できていない場合がある。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と連携したチーム支援に取り組む。	①入居時や心身状態の変化が見られた際に、重度化や終末期の支援について、本人・家族の思いや希望を確認する ②事業所として対応可能な支援内容や体制、医療的対応が必要となる場合の限界について、分かりやすく説明する ③本人・家族の意向については、状況に応じて見直しを行い、職員間で共有する ④主治医や訪問看護、関係機関と情報共有を行い、本人・家族の意向を踏まえた支援が継続できるよう連携する	12 ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。